

2023年11月27日(月)

14:00~14:40

リポジトリにおける多言語・非英語  
コンテンツの管理のための推奨事項に  
関する解説会

1

# プログラム

## 1. 趣旨説明

片岡 朋子 (お茶の水女子大学附属図書館／コンテンツ流通促進作業部会)

## 2. 推奨事項の解説

三上 絢子 (北海道大学附属図書館／研究データ作業部会・コンテンツ流通促進作業部会)

## 3. JPCOARスキーマ／IRDBの推奨事項への対応状況

片岡 朋子 (お茶の水女子大学附属図書館／コンテンツ流通促進作業部会)

## 4. 意見交換

3

## 趣旨説明

## オープンアクセスリポジトリ連合（COAR）

- 2009年に設立された国際的なリポジトリコミュニティ
- 164機関／団体が参加
- 2017年度よりJPCOARもCOARに加盟
- 2022年8月リポジトリにおける多言語および非英語コンテンツのサポートのためのCOARタスクフォースを設置  
JPCOAR作業部会員の三上絢子さんが参加
- 2023年6月に推奨事項のドラフト版をコミュニティに提示  
JPCOARからもドラフト版へのフィードバックを実施
- 2023年10月30日に推奨事項を公開

# 多言語使用の目的

- 研究の健全性、包摂性、多様性確保の観点から、学術コミュニケーションにおける多言語使用は重要。
- ローカル言語で出版することは、その地域の一般市民の研究へのアクセス、研究者への公平な競争の機会を与えることを保証する。
- 数十年に渡り英語による学術出版が主流となっていたが、ヨーロッパやアジア等において、政策立案者が研究者に対してローカル言語での出版を推奨する新たな政策を策定する等、政策の転換が図られようとしている。
  - 「学術コミュニケーションにおける多言語使用に関するヘルシンキ提言」において、世界共通言語である英語の支配的な地位は、世界中にアイデアを広めるのには有用であるが、地域レベルでの研究成果の活用を妨げているという指摘がある。
  - オープンサイエンスに関するユネスコ勧告では、加盟国に対し、科学の実践、学術出版、学術コミュニケーションにおける多言語使用を促進するよう求めている。

## 多言語使用の課題

- ▶ 多言語使用において、学術情報資源の言語が適切に処理されなければ、検索サービスに正確にインデックスされない。
- ▶ インデックス作成には、語幹や見出語の解析、ストップワードの処理などのテキスト分析が含まれ、その技法は言語に依存する。
- ▶ 研究者や情報検索者は1~2言語しか読めないかもしれないが、出版物の言語に関係なく、自分の分野に関連する全ての研究について情報を収集したいと考えている。
- ▶ 適切な言語表示、言語タグ等の採用により、アグリゲーター、ディスカバリーサービス等は言語を正しく識別し、処理することができるようになる。研究者のニーズをサポートし、より良い多言語検索を提供するために重要。

# JPCOARスキーマ／IRDBの推奨事項 への対応状況

## 推奨事項

8

1. アイテムレベルでISO-639-3言語コードを用いて登録資料の言語を明示する (**必須**)
2. xml:lang等の言語属性によりメタデータの言語を明示する。アグリゲータは言語属性によりメインタイトルを判別できるようになる
3. 標準化された言語コード(ISO)を使用する
4. UTF-8をサポートし、可能な限り原文の表記法を使用する。翻字を行う場合は、理解可能な翻字の規格に準拠した方法で行うことが望ましい
5. 英語に加えて母国語のインターフェースを利用可能にする

## 対応状況 (太字下線が未対応)

1. JPCOARスキーマではアイテムレベルでISO-639-3言語コードが使用可能 (**推奨**)
2. JPCOARスキーマでは複数の要素でxml:lang属性によりメタデータの言語を記述可能  
IRDBでは言語属性により検索結果のタイトルの言語をインターフェースの言語に合わせて切替可能
3. JPCOARスキーマでは本文の言語(dc:language)はISO-639-3、メタデータの言語(xml:lang属性)はISO-639-1が使用可能
4. JPCOARスキーマでは文字のエンコーディング方式を定めていない。JAIRO CloudではUTF-8によるエンコーディングを採用
5. JAIRO Cloudでは多言語インターフェースをサポートしており、日本語、英語に加え複数言語でのインターフェースが構築可能



## 推奨事項

9

6. 登録資料に沿った人名の表記とPIDの使用
7. 多言語のキーワード、語彙、シソーラスを使用する。リポジトリやプラットフォーム提供者がWikidata等の語彙をキーワードとして自動付与またはサジェストできること
8. リポジトリ管理者への翻訳の推奨
  - 8.1 翻訳者のクレジットが記入できる項目を設けること
  - 8.2 翻訳者の識別子が記述可能なこと
  - 8.3 翻訳状態（機械/人的/オリジナル）、翻訳言語、原文の言語が記述可能な項目を有すること

## 対応状況 （太字下線が未対応）

6. JPCOARスキーマでは転記を原則\*としており、作成者、寄与者等でORCIDを含む永続的識別子（PID）を使用可能
7. JPCOARスキーマではアクセス権、資源タイプ、出版タイプでCOARが策定した統制語彙を採用しており、語彙の識別子（URI）から多言語の翻訳が参照できる。**IRDB / JAIRO CloudではWikidata等を用いたキーワードの自動付与等には対応していない**
- 8.1 JPCOARスキーマでは翻訳者の情報は、作成者(jpcoar:creator)に役割(creatorType)とともに記述可能。翻訳内容は、内容注記に記載
- 8.2 JPCOARスキーマでは翻訳者の識別子は記述可能
- 8.3 JPCOARスキーマでは翻訳言語、原文の言語は記述可能。**翻訳状態について未対応**

\* JPCOARスキーマガイドラインFAQ <https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/faq/cat-a/86>

## 推奨事項

10

- 8.4 関連情報の項目を設け原本と翻訳資料が関連付けられること。“Is a translation of” “Is translated from”のようなラベルが付与できること
- 8.5 関連情報に、原文の情報やリンク、出版事項等を含めること
- 8.6 翻訳資料は特段の指定がない限り、原文とは別のレコードとして公開すること
- 8.7 新たに刊行された資料の翻訳や再翻訳を促進するため、適したライセンス（CC-BY等）の使用を促すこと
- 8.8 こうした取り組みを実施するため、FAQ等により投稿者に十分な情報と推奨方針を確実に提供すること

## 対応状況 (太字下線が未対応)

- 8.4 JPCOARスキーマでは関連情報 (jpcoar:relation)で原本と翻訳資料との関連付けは可能。**翻訳の関係性を示す relationTypeは設けていない**
- 8.5 JPCOARスキーマでは関連識別子 (jpcoar:relatedIdentifier)に原文のDOIやURI、関連名称(jpcoar:relatedTitle)に原文のタイトルを記述可能。**詳細情報（原文の出版事項、翻訳方法等）は内容記述に記載**
- 8.6、8.7、8.8  
**当推奨事項の日本語への翻訳版を作成し、JPCOARスキーマガイドラインサイト等にて公開する**

# 質問への回答（2023/11/29追加）

（ご質問）

ISO-639の言語コードに関連して、JPCOARスキーマでは2文字コードがない場合は未入力にするようになっていますが、DOIを付与する場合、IRDBへのハーベスト時にエラーとなります。何か回避策がありますでしょうか？

（回答）

DOIを付与する場合はJPCOARスキーマに加えてDOI登録機関（JaLC、Crossref、DataCite）が規定する形式に合わせたメタデータの記述が必要となり、JPCOARスキーマ上の定義とDOI登録機関による規定に差異が生じる場合もあります。

例えばご指摘のように、JPCOARスキーマ上「言語の識別が難しい場合およびISO 639-1の2桁の言語コードが存在しない場合は、言語コードを記入しない。」となっていますが、JaLC DOIを登録する場合、作成者の言語属性は「複数言語で設定する場合は必須」となっています。

このような場合におけるIRDBによるハーベストエラーの回避策はありませんので、何等かの言語コードを設定していただく必要があり、言語が不明の場合は「und」の使用も可能ですが、1回のみ使用（重複使用不可）となっています。

参考情報

JaLC > ジャーナルアーティクル（アーティクル）登録マニュアル

[https://japanlinkcenter.org/tech/top/pdf/JaLC\\_tech\\_journal\\_article\\_manual.pdf](https://japanlinkcenter.org/tech/top/pdf/JaLC_tech_journal_article_manual.pdf)

p.15 「※6 複数言語で設定する場合は必須」

JPCOARスキーマガイドライン > JPCOARスキーマ項目の説明

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema>

JPCOARスキーマガイドライン > 作成者姓名

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/schema/1.0.2/3-.2>